

令和7年度 函館市立南茅部小学校自己評価および学校関係者評価結果

1 本年度の重点教育目標

主体的に学び、新たな課題の解決に向かう「こころ」と「ちから」をもつ子供の育成
～学び合い、高め合い、やりぬく子～

2 本年度の取組の重点

- ① 児童一人一人の確かな学力の定着・向上を図る学習指導の充実
- ② 児童一人一人を大切にしながら、児童の心を育てる教育活動の推進
- ③ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- ④ より働きやすい環境の整備
- ⑤ 家庭・地域との連携による開かれた学校・信頼される学校づくりの推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(回答数11)

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
① 児童一人一人の確かな学力の定着・向上を図る学習指導の充実	個別最適な学びと協働的な学びを保障し、確かな学力の定着・向上を図る授業の工夫・改善を行うとともに、文字に触れる機会を増やす読書指導の充実や、GIGAスクール構想に基づく教育活動の工夫・改善をすることができたか。	b	個に応じた指導や協働的な学びを取り入れ、児童の基礎基本の定着と授業改善を推進するとともに、読書への興味を高め、ICT活用やAIの導入により学びを深めることができた。	A11	A11	・図書司書の配置など読書への興味を高める努力がわかります。
	② 児童一人一人を大切にしながら、児童の心を育てる教育活動の推進	a	多様な価値観を相互に認めあうことや、自然愛護や文化尊重など、授業で学んだことを実生活に生かそうとする意識が高まり、友人間のトラブルの際にも誤りを素直に認めたり、未然防止に努める児童を増加させたりすることができた。	A11	A11	
③ 児童一人一人の特性に合わせた心身の保持増進を図る教育活動の展開	運動に親しむ資質能力を高めるとともに、年間を通して体力向上と健康増進を推進する教育活動としての食育や健康教育の展開による生活習慣改善を求める態度を育成することができたか。	b	マラソン記録会やなわとび記録会など、目的意識をもたせて継続的に取り組ませたり、日々の体育科授業での運動および健康増進への興味・関心を高めたりしながら、自己の将来像を思い描くことができた。	A11	A11	
	④ 児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	a	特別支援学級および通常学級に在籍する全ての子どもに相応しい教育を関係機関と連携を図りながら展開することで、児童一人一人の自立を進めることができた。	A11	A11	
⑤ より働きやすい環境の整備	・共感的児童理解に立った生徒指導と相談活動の充実を図るとともに、不登校傾向の児童への組織的対応を推進することができたか。	b	全児童の個性を伸ばすことや、自己の成長への意欲を高めることをねらいとした発達支持的生徒指導に重点を置き、組織的な対応を継続していく。	A11	A10 B1	
	・人数に見合った校内組織への変革を実施し、教職員が適切な役割を果たすとともに、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	a	初任段階からベテランまでがそれぞれの持ち味を発揮しながら業務量や推進計画のPDCAサイクルを回し、さらなる改善を図る。	A11	A10 B1	・学習発表会では、全ての学年が素晴らしく見応えのある内容で、先生方の熱意を感じました。 ・アンケート結果を見ると教職員と保護者の役割責任の範囲が曖昧で、負担が大きいと思われるが、日頃の献身的な教育活動に感謝しております。
⑥ 家庭・地域との連携による開かれた学校・信頼される学校づくりの推進	・働き方改革から、新時代の働く姿の日常化を図り、学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	職員が一丸となって働き方改革を自分事と捉え直し、ワークライフバランスを意識した働き方を推進している。	A11	A11	
	・コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	参観日や行事での来校から成果について再確認していくとともに、課題の共有化を図っている。	A8 B2 C1	A10 C1	・学校運営協議会での授業参観はとても有意義でした。 ・参観日は、見せるだけでなく親と子と学校のレクリエーションなどを取り入れる。
	・学校外の教育力の活用と、各種通信、安心メール等を通じた情報の発信をすることができたか。	b	メール配信に加え、ホームページから学校の情報にアクセスできるように、整備を進める。	A10 B1	A9 B2	Tetoruでの発信など十分活用できている。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

